

## 新設モトコー会場 港町の雑多さ取り込み

3回目となる「神戸ビエンナーレ」が神戸市内の4会場で開催されている。全国各地で「ビエンナーレ」「トリエンナーレ」といった国際美術展が開催されるなか、神戸もい

かに独自色を打ち出すか課題となっている。これまで神戸ビエンナーレは、港に置いた輸送用コンテナをそのまま展示空間として活用する「アートインコンテナ国



### 3度目の神戸ビエンナーレ

際展」を港町でのビエンナーレの特色として打ち出してきたが、東日本大震災の影響で、神戸ハーバーランドセンタービル（中央区）での室内の展示に変更。前回話題になった、船から大型の立体作品を鑑賞するプログラムもなかったため、港町らしさは薄くなった。

一方、今回加わった元町高架下会場での「高架下アートプロジェクト」は高架下にある商店街、通称モトコーの雑多な雰

囲気や歴史を取り込んだ作品が目立つ好企画。彫刻家、北川太郎の「時空

ピラミッド」＝写真のよう  
ように、カオスのような店舗の連なりのなかに突如、異空間を生じさせるものもあれば、空き店舗の床や壁についての無数の傷を発光させることによって時間の重なりや人々のかかわりを感じさせる作品、電車や車の音や人々の声に反応する作品など多様だ。公募で選ばれた13組による作品が公開されている。

11月23日まで。

【手塚さや香、写真も】